

第 3 0 回 学 校 評 議 員 会 会 議 録

平成 2 5 年 7 月 1 3 日 (土) 10:00~11:30

弘前高校会議室

出席者 学校評議委員 4 名

学 校 側 校長、教頭 (司会)、事務長、教務主任
進路指導主任、生徒指導主任、教務部員 (記録)

1 校長挨拶

- 校長 : 弘前高校は今年、創立 1 3 0 年にあたります。せっかくの 1 0 年の節目なので、今年
は生徒の心に残ることをやっていきたいと考えています。
本校は歴史が古いので県下一、同窓会の支部の数が多いです。先日ある支部の同窓会
に出席したところ、子供さんを 2 0 才で亡くした方とお話する機会がありました。子
供さんが亡くなったときは、身を投げて自分も死のうかと思いつめたこともあったそう
ですが、6 5 才の今まで生きてきたそうです。その方は子供が好きだったギターを、趣
味にしているそうです。その方がおっしゃった言葉で印象に残ったのは、金をなくすの
は小さな不幸、家族を亡くすのは大きな不幸、夢を失うのはすべてを失うことだとい
うことでした。支部同窓会に参加して、いろいろな人のいろいろな思いを大事にしながら、
学校を運営していかなければならないと、思いを新たにしました。
- 教頭 : 生徒は今週、午前 4 時間授業をしたあと、午後はねぶたを制作してきました。そして
特に本日は、朝からねぶたを制作しております。生徒は毎日、一生懸命ねぶた制作に励
んでいます。せっかくの機会ですので、生徒の活動の様子を見たあと、ご意見を伺いた
いと考えております。
- 一同 : (ねぶた制作見学へ)

2 意見交換

- 校長 : 「目指す人間像」「教育目標」については本校伝統の方針です。特に「目指す人間
像」は昭和 4 4 年に小田桐孫一校長先生が定められてから、ずっと受け継がれてきまし
た。本校に入学を希望する生徒はほとんど、この教育目標を知っています。ただその意
味については、生徒それぞれが自分自身で考え、気づくことになっています。
「学校経営方針」は「教育目標」を具体化したものです。特に今年は、先生方に将来
生徒が自分で考えて決断できるように、普段の授業を通して、生徒が自ら考える授業を
して頂くようお願いしています。基本的に学校は、知識を身につけることが重要視さ
れてきました。しかしそれだけではなくこれからは、疑問を持つ、目的を持つ、または
本質を考えるとということを、重視していかなければなりません。先生方には、生徒が考
えあぐねていたら助けることをお願いしました。また先生方には当たり前のこととして、
「挨拶の励行」「生徒の規範意識の向上」「教育者としての誇り」「公務員としての自
覚」をお願いしました。
- 教務部 : 平成 2 5 年度の教務部、生徒指導部、進路指導部、保健相談部、渉外部、各学年、事
務部の重点努力事項については、青森県教育委員会「施策の柱」①キャリア教育の推進
による人材育成、②多様なコミュニケーション教育の充実、③学校や公民館を核とした
地域コミュニティの活性化、に関連するようにしました。教務部目標の「教育課程の研
究を進め、改善点を検討する」については現在、今年度の新入生からは新学習指導要領
の完全実施、2 年生は数学・理科において先行実施、3 年生は旧学習指導要領と、旧か
ら新への学習指導要領の移行期間にあたっています。弘前高校が目指す方向に合致した
教育課程の編成のため、問題点を探り、改善していきたいと考えています。また今年度、
2 年生からの類型別指導がスタートしました。今までは 3 年生からの類型別指導にして

いましたが、新学習指導要領を実施する上で様々な諸課題に対応するために、このような指導をしていくことになりました。

努力目標2の「自立した望ましい社会人となるため、主体的な学習態度の育成と確かな学力の定着を図る。そのための効果的な指導方法や授業を目指す研修活動を進める」は先ほどの青森県教育委員会の施策の柱①に関連する努力目標になっています。また「各学年・分掌との連絡調整」「授業時数の確保」「成績処理システムの円滑な運用」「スムーズな選抜業務」「学校評価を受けて学校運営上の問題点を検討する」についても努力していきたいと考えています。

生徒指導部： 生徒指導部の現在の取組は2つあります。1つめの「生徒送迎のための保護者の校地内乗り入れの自粛」は特に雨の日など、近隣の道路の渋滞を招き迷惑になっているので、校地内ではなく、学校から離れた場所で乗降してもらうようお願いしているところです。

2つめは「時間の厳守」です。2年前まで遅刻が多く問題になっていました。昨年度から徐々に減少してきましたが、さらに少なくなるように指導に努めています。

学校への苦情は今年度1件ありました。自転車の乗車マナー、右側通行についてでした。ちなみに昨年度の苦情は3件でした。自転車の事故は6月初旬から中旬にかけて3件あり、ほとんどは被害事故でした。昨年度は加害事故が多かったです。

弘高祭は7月17日から19日に計画されています。7月5日からねぶたの制作を開始し、17日が運行日になっています。今年は市民会館が改装工事で使用できないので発表は青森県武道館で18日に行われます。19日は展示と模擬店が校内で予定されています。

今年度高校総体は団体優勝はありませんでしたが、個人では陸上、水泳、馬術でありました。馬術は特別に部として活動しています。現在部員は3名います。結果については例年並みと言えられると思います。今年全国大会に出場する部は、写真、囲碁、将棋、放送局、ボウリングの5つです。昨年は9つでしたので少し寂しい感じですが。軟式野球と水泳では東北大会への出場が決まっています。水泳は東北大会の結果でインターハイへの出場が決まりますが、1年生の女子に可能性の高い選手が1名おります。最後に部活動への加入率ですが、全校で90%を越えています。特に弓道、吹奏楽、ダンスの部員が多いです。兼部している生徒も多く、進学校としては活発に活動しているほうではないかと思えます。

進路指導部： 進路志望調査は1、2年生で年に3回、3年生は2回調査しています。まず5月に実施した今年度の1年生の進路志望状況からご説明いたします。例年通り国公立で95%以上あります。医学部志望が73名、一時期低迷していた薬学部志望も22名と復活しています。医歯薬系で114名と例年の1年生よりも多い傾向があります。弘前大学の医学部医学科の希望が32名とこれも例年よりも多い結果になっています。2年生は国公立志望が256名で相変わらず多く、このまま志望者数が変わらなければと思っています。医歯薬系も73名と相変わらず多い状況です。この学年の特徴としては志望が例年よりバラエティに富んでいることです。

最後に3年生の進路志望状況についてご説明いたします。例年通り国公立志望者が多く、特徴としては理系のクラスが5クラスと例年より1クラス多いため理系志望者が多くいます。例年東北大志望者が80名ほどいますが、今年度は88名希望者がいます。データでは、例年ほぼこの時点での調査人数が受験しています。多くの生徒が受験してくれることを期待しています。また相変わらず医歯薬学部志望者は87名と多いのですが、特に医学科は41名の志望者がいます。この5、6年ほどは12名から16名の合格者数なので、浪人が多くでる可能性があります。

教頭： 各分掌からの説明が終わりましたので、これから質疑応答に入ります。

評議員D氏： 東京大学に入学している子供から、大学について話を聞くと、9割は普通の人とのことでした。ただテスト前の集中力は半端ではないと聞きました。やはり勉強は集中して行うことが重要だと思いました。弘前高校に入学する生徒は、入学時点で安心して勉強

しなくなるのではないのでしょうか。将来の大学合格が約束されたような気になり、挑戦する気持ちを失ってしまうのではないかと思います。

教頭 : 入学して安心してしまう生徒は確かにいます。チャレンジする気持ちが大事です。

進路指導部 : チャレンジする気持ちは大切ですが、例えば先ほどお渡しした資料で医学科への合格者数を生徒が見ると「自分も」となってしまいます。弘前高校に居るだけで、合格できる気持ちになってしまうようです。進路データを読み間違っている生徒は、多いのかもしれない。

評議員 A 氏 : 文部科学省管轄外の学校への進学とは何ですか？

進路指導部 : 防衛大学への進学です。昨年も若干の進学がありました。

評議員 C 氏 : 新しい馬術部などが活躍しているのはいいとして、昔から活動し伝統ある部がなくなるのは寂しい気がします。対策はどうなっているのでしょうか。

生徒指導部 : 例えば柔道部は今年で3年間新入部員がいまいませんでしたが、今年新入部員が入りました。伝統ある部は存続していくように、今後も努力していきます。昨年度はゴルフ、ウエイトリフティングで実績のある生徒が在籍していたので、特別に部活動として認めていました。

評議員 C 氏 : 先日、応援団が新入団員がなく存亡の危機に陥っているというテレビを観ました。その後応援団はどうなっていますか。応援団も是非、大切にしてください。

生徒指導部 : 応援団には最近、1年生の女子が1人入団して活動しています。

評議員 C 氏 : 学校の部活動ではありませんが、高校生でもバレエを続けて、活躍している生徒がいます。レッスンは厳しく、指導する先生は学業との両立を求めています。バレエを続けながら高校生活を送り、医者になった人もいます。90%超の部活動への加入率は素晴らしい。勉強だけでなく、人間性を大事した教育を続けていって下さい。

評議員 B 氏 : 2年生で文理分けをしなければならなくなったのはどうしてですか。

教務部 : 新学習指導要領に対応していくために2年生から類型別の授業にしました。最近資格指向が強まり、理系を希望する生徒が増えました。3年生は理系5クラス文系2クラスで、例年よりも理系が1クラス多い現状です。理系を希望する生徒には、本当に自分の適性、興味、関心など様々なことを考えて選択してほしいです。生徒の将来を見据えた、保護者との話し合いが重要だと考えています。

評議員 D 氏 : 子供の受験の経験では3年生の数学、理科、世界史は10月まで試験範囲を終わらなかつたようです。受験対策は、本当にギリギリだったため、もっと早く試験範囲を終わることが望ましいと思います。

教務部 : 時間的制約から、早く試験範囲を終わるのは難しいです。現状では超難関と云われる大学は、中高一貫校出身者で占められつつあります。残念なことに、地方の伝統校から超難関大学に現役で合格するのは本当に難しいと思われます。

評議員 A 氏 : 大学の教育学部でも「ゆとり教育」の弊害が顕著にでています。世知辛いことですが、基礎的な学力が乏しい学生に学力をつけさせるために、入学後すぐから学生を仕分けし、計画的に教育しています。高校も大学も悩みは似ています。

話は戻りますが、学校が多忙化している現在、部活動にもっと地域の人を力借りることを考えてもよいのではないのでしょうか。例えば新寺町の法源寺の住職さんは囲碁ア

マチュア八段で、現在も囲碁教室を開いています。以前は弘前高校の強い生徒も練習に通っていました。

生徒指導部： いくつかの部活動では外部のコーチをお願いしています。

評議員D氏： 部活動の人数が一部の部活動に偏りすぎているのが気になります。

生徒指導部： ダンスは若者の間でブームになっています。ブームが終わればいずれ減ります。テレビなどマスコミの影響も大きいと思います。

評議員D氏： 部活動と勉強の切り替えを、うまくするように指導してほしい。

教頭： それでは、最後に評議員のみなさんから学校に対する要望などを一言ずつお願いします。

評議員A氏： 弘前高校に特別な注文はありません。これからも生徒のために頑張ってください。

評議員B氏： 外からは案外分からないもので、今日参加してみて、学校の事が少し理解できてよかったです。

評議員C氏： 学校の中身が、外部にもっとよく見えるようになるとういと思います。

評議員D氏： 弘前や青森県の外にも生徒の目を向けさせてください。今後もよろしくお願いします。

校長： 忙しい中、長時間にわたり貴重なご意見を伺いありがとうございました。ねふた運行は7月17日の予定です。今のところ天気予報はよくありません。今年から、運行コースが変更になり、桜大通りに集合し、出発になりました。もしよろしかったら生徒が一生懸命制作したねふたを観て、沿道から声援を送って頂けると、生徒の励みになると思います。これからも弘前高校をよろしくお願いします。

教頭： 次回評議員会は2月を予定しています。12月頃までに皆さまのご都合を伺って、日時を確定したいと考えています。弘前高校のことで気づいたことがあればいつでも学校にお知らせください。本日はご来校頂きありがとうございました。

終了 11：40